

ICT活用による次世代型水産業の確立（愛媛県愛南町）

取組概要

町の基幹産業である水産業の活性化を図るため、ICT利活用により、海の環境、養殖魚の魚病情報を可視化及び共有するとともに、愛南町が推進している“ぎょしょく”教育の情報発信や人材育成など、戦略的な水産業の実現を図った。

また、関係機関とのコミュニケーションを活発化して必要な情報を共有し、業務の改善を行った。

人口 22,713人 (H28.7.1現在)

担当 水産課

取組の効果

システムの導入により、魚病や有害赤潮プランクトンの早期発見、漁業者への連絡など迅速な対応が可能となった。

また、本システムを活用した若手養殖業者が出荷管理システムや生産管理システムを自社で構築するなど、水産現場でのICTの普及促進が図れた。



魚病診断

創意・工夫した点

「魚健康カルテシステム」については、全国初のシステムであり、また、利用者がこれまで、ICT利活用に不慣れな漁業者であるため、漁業者、大学の有識者、漁協、町、ベンダーが協議を重ねてシステム開発を行った。

他団体へのアドバイス

本事業では、漁業者、漁協、大学、町が連携して事業を実施したが、団体間の調整が困難な場合もあるが、様々な機関が関わることで、様々な意見を聞くことができ、それを取り入れることにより、良い事業、物ができると考えている。



水域情報可視化システム